

日本統計学会誌 論文原稿執筆要項

1. 日本統計学会誌は TeX を用いて印刷されています。原稿は可能な限り TeX を用いて作成してください。学会のホームページに TeX のテンプレートがあります。
2. Word などを用いて原稿を作成する場合には A4 判の用紙に横書きで、行間を十分にとり、1 ページに 1,200 字程度（1 行 35～45 字、1 ページ 25～35 行）としてください。

論文が採択され、最終原稿を提出して頂く際に、複雑な数式が多く、出版社での TeX への変換において著者の意図通りに再現できない場合は、TeX による原稿の打ち直しをお願いすることがあります。

3. 原稿は (1) 標題, (2) 著者名 (右肩に*印を付けます。著者が 2 名以上のときには、†印, ‡印などを付けます。Word などの場合には、**印, ***印で代用しても構いません), (3) 標題の英訳, (4) 著者名のローマ字 ((2) で付けたものと同じ*印などを右肩に付けます), (5) 要旨 (和文 400 字程度と英文 150 語程度。和文だけでも構いません。これらでは節番号を参照しないようにしてください), (6) 本文, (7) 参考文献, の順に書くこと。

表と図は参考文献の後にまとめても構いません。

また標題を記したページの下欄外に、*印, †印, ... に対応させて所属機関名と所属部局などを書き、その後に郵便番号、連絡先住所、メールアドレスを続けてください。

(4. を参照)

4. 第 1 ページの標題などの書き方は次のようにしてください。

(例)

<p style="text-align: center;">多変量解析とその応用</p> <p style="text-align: center;">田中 一郎*, 田中 二郎†</p> <p style="text-align: center;">Multivariate Analysis and its Applications</p> <p style="text-align: center;">Ichiro Tanaka* and Jiro Tanaka†</p> <p style="text-align: center;">:</p> <hr/> <p>* 東都大学理学部：〒 106-0000 東京都港区 … (E-mail : ichiro-t@…).</p> <p>† 西都大学経済学部：〒 606-0000 京都市左京区 … (E-mail : jirotanaka@…).</p>

5. 本文は適宜、節に分割し、一番大きな単位の節の見出しを“1.”、“2.”…と表記し、第2節の最初の小節は“2.1”のように見出しを太字で表記してください。節番号を本文で参照する際は、太字にせず“2節では”、“2.1節では”のように参照してください。
6. ゴシック体やイタリック体などのフォントや、ギリシャ文字などで分かりづらいものがある場合は、別途指示してください。
7. 本文中の数式の文字は原則としてイタリック体で印刷されます。それ以外を希望するとき、分かりづらいものがある場合は、別途指示してください。
8. 脚注は、本文中では一連番号を参照箇所の右肩に¹⁾、²⁾、…のように書き、そのページの下欄外にその都度書いてください。
9. 和文の参考文献の書き方（和訳書を含む）

(a) 雑誌の場合

著者名 () 付きで刊行された西暦年). 「標題」『雑誌名』 巻 (数字のみ. 太字. 太字が表現できない場合には__を付けてください), ページ番号 (数字のみ).

11. の朝日・岡本 (2005) を参照

(b) 単行本などの場合

著者名 () 付きで刊行された西暦年). 『書名』 発行所.

11. の加藤 (1990) などを参照

(c) 叢書の中の1巻や編集書の中の1章の場合は11. の小林 (2003) に準じてください。

(d) その他の文献については上記の (a), (b), (c) に準じてください。

10. 欧文の参考文献の書き方

(a) 雑誌の場合

著者名 () 付きで刊行された西暦年). 標題, 雑誌名 (イタリック. イタリックが表現できないときには__を付けてください), 巻 (数字のみ. 太字. 太字が表現できない場合には__を付けてください), ページ番号 (数字のみ).

11. の Mann and Wald (1943) などを参照

(b) 単行本などの場合

著者名 () 付きで刊行された西暦年). 書名 (イタリック, 11. の Fisher and Yates (1963) のように主な word を大文字で始めてください), 発行所.

11. の Fisher and Yates (1963) を参照

(c) 叢書の中の1巻や編集書の中の1章の場合は11.のAnderson (1963)に準じてください。

(d) その他の文献については上記の(a), (b), (c)に準じてください。

11. 参考文献は和文と欧文のものを合わせて著者名のアルファベット順に並べてください。

(例)

参 考 文 献

Anderson, T. W. (1963). Determination of the order of dependence in normally distributed time series, *Time Series Analysis*, Rosenblatt, M. ed., John Wiley & Sons, 425–446.

朝日太郎, 岡本次郎 (2005). 「多変量解析による分類について」『理論統計学会誌』 **3**, 101–120.

Bethlehem, J. G., Keller, W. J. and Pannekoek, J. (1990). Disclosure control of microdata, *Journal of the American Statistical Association*, **85**, 38–45.

Fisher, R. A. and Yates, F. (1963). *Statistical Tables for Biological Agricultural and Medical Research*, 6th ed., Oliver and Boyd.

加藤三郎 (1990). 『経済統計』 東都出版.

小林四郎 (2003). 「多段抽出法」『標本調査法』 佐藤五郎編, 東西出版, 158–173.

Mann, H. B. and Wald, A. (1943). On the statistical treatment of linear stochastic difference equations, *Econometrica*, **11**, 173–220.

田中六郎, 鈴木七郎, 佐々木八郎 (2017). 『ビッグデータと統計分析』 西都出版.

12. 本文中での参考文献の引用は, 2名共著の文献については“Fisher and Yates (1963)は…”, “Fisher and Yates (1963) (11~30頁)は…”, “朝日・岡本 (2005)は…”のように表記してください。3名以上の共著文献については, “Bethlehem *et al.* (1990)は…”, “田中他 (2017)は…”のように表記することを原則としますが, 必要に応じて“Bethlehem, Keller and Pannekoek (1990)は…”や“田中・鈴木・佐々木 (2017)は…”のように全員表記することも可能です。必要な場合には, 編集委員会にご相談ください。

13. 表と図を参考文献の後にまとめる場合, それらの挿入箇所を原稿の本文の右側に指定してください。

編集委員会からのお願い

1. 論文を投稿する際, 審査の便宜上, 完全な原稿の控えを手もとに置いてください。
2. 論文を掲載する際, 著者には1回だけ校正をお願いしています。このとき印刷上のミス以外の修正は原則として認めませんのでご承知おきください。

3. 掲載論文の別刷は学会員については30部を無料で著者に送付します（共著の場合でも全体で30部）。それ以上必要な場合は校正の際申し出てください。その分については実費をいただきます。また非学会員については実費をいただきます。※2022年9月1日以降に投稿された論文については、別刷の送付は廃止いたします。